

# 「未知の理論・実践に挑戦を」

## 公開シンポで前嶋孝教授講演

社会体育研究所主催の「OL4」が、今年も10月13日に生田キャンパスで「ツレガシーシリーズV」開催された。テーマは「

スポーツ科学の可能性とその限界―実践としてのスポーツ科学」。オリピックやサッカーW杯にスタッフとして参加した徹底したイメージトレーニング、長野オリンピック

勝てない」と語り、効果が分からなくても「指導者として確信あることばやってみる」重要性を説いた。



▲ 左から久木留准教授、結城氏、杉田氏、前嶋教授

### スポーツ科学の可能性をディスカッション

学者とコーチの2人をゲストに迎え、熱い討論が交わされた。

第一部は、前嶋孝法学部教授が「世界への挑戦・専修大学スピードスケート部」と題して講演。インカレ2部から1部総合優勝へ押し上げた、データに基づき、限界に挑戦させた体力トレーニング、体力差を克服し日本を世界へと羽ばたかせた新たな滑走法、

サラエボオリンピックの敗北から岩岩選手(昭59)をカルガリーオリンピック銅メダルへと導いた徹底したイメージトレーニング、長野オリンピック

（三重大学教授）、コーディネーターの久木留准教授によるパネルディスカッション。まずは、結城氏がスピードスケートの清水宏保選手へのコーチングの経験から、コーチはサポートとして絶対が必要であるが、理想は「コーチのいない選手への育成」だと語り、杉田氏は南アフリカサッカーW杯のサポートスタッフとしての経験から、現場へは「フィードバックが重要」であると言った。



▲ トレーニング方法について講演する前嶋教授

この後のディスカッションでは、スポーツ科学者は測定データを「解釈」しそれを選手や指導者に「共通認識」させ、よりよい方向性を見いだす能力に加え、「しつこさ」も必要との結論に至った。

3氏の妥協のない姿勢、執念に日本のスポーツ科学の可能性を感じた。（社会体育研究所）

### 緑鳳学会 第20回記念大会

#### 近江教授が記念講演

専修大学緑鳳学会（矢野文庫が語るフランス革命）をテーマに記念講演会が10月22日、生田キャンパスで、会員ら68人が出席して開かれた。

はじめに谷口智紀さん（院法4）、イ・ナギョさん（院法3）、高橋誠法部非常勤講師がそれぞれ研究発表を行った。近江吉明文学部教授（緑鳳学会幹事）が「ミ



▲ 近江教授の講演。今総会で2012年度から、小杉副会長が新会長に就任することが決まった。

### よりよい人間関係を築くために

モラル・ハラスメントという言葉を知っていますか？モラル・ハラスメントというのは「精神的な暴力」のことを言い、直接相手を傷つける言動以外にも、相手に話しかけない、目を合わせないといったコミュニケーション拒否して相手を傷つける行動や、ため息をつくなどの軽蔑的な態度をとる、悪いうわさを流すといった相手の尊厳を傷つける行動も含まれます。

モラル・ハラスメントの被害を受けていないかどうか考えてみるのが大切です。自分の言動が人を追い詰めているか、そしてそれを相手が悪いから仕方ないと思ってしまうかまで考え、自分がモラル・ハラスメントの加害者になっていないか気を配ってみてください。そして、周りの人は見て見ぬふりはしないでください。よりよい人間関係を築くために、自分の心も他人の心も大切にしたいものです。（キャンパスハラスメント対策室員・岡村陽子）



### 「田尻稲次郎展」

#### 11月22日から 鹿児島市で開催



専修大学創立者の一人・田尻稲次郎の生涯を追う企画展が11月22日から、田尻ゆかりの鹿児島市で開催される。

お問い合わせは大学史資料課（☎03・3265・10879）まで。



### 会計学研究所主催 会計学講演会

日本簿記学会会長、財務会計研究会会長の新田一橋（一橋大学名誉教授）を招き、会計学研究所（所長 黒川保美）が主催の「会計学講演会」が、10月24日、生田キャンパスで学生約200人が参加して開かれた。

この会計の変化により、今後の公認会計士試験や税理士試験の中身も変わっていく可能性がある。両試験を目指す学生

### 新田一橋大学名誉教授が講演

最後に新田教授は「会計学を通して社会は変えられる。そんな気概と自信を持って勉強してほしい」と学生たちにメッセージを送った。

### 恩田氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）招いて

田口冬樹経営学部教授の「流通論」特別講義が10月20日、生田キャンパスで行われ、学生約200人が聴講した。



▲ 熱心に聴講する学生たち



▲ 恩田氏(左)を紹介する田口教授

衛生から見た夜景、ひときわまるい地域は市場として伸びる要素があるという市場のファクトを探し出す興味深い手法を紹介した。